大学生の職業観が地元志向に与える影響

山田智之

(上越教育大学)

キーワード：大学生 職業観 地元志向

Effects of University students' Occupational attitude on their local orientation

Tomoyuki YAMADA

(Joetsu University of Education)

Key Words: University student Occupational attitude Local orientation

目 的

まち・ひと・しごと創生本部 (2017) は、地方から東京圏への人口流出に歯止めをかけ、「東京一極集中」を是正するため、「しごとと創生」と「ひとの創生」の実現するために新たな「ひと」の流れをつくることの重要性を示した。

「しごとと創生」に関連する動きとしては、2009年3月に告示された高等学校学校学習指導要領、2017年3月に告示された小・中学校学習指導要領に「キャリア教育」という文言が明記されたことがある。これらの学習指導要領により、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成、社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成の必要性が認識されるようになった。一方、「ひとの創生」に関するものとして、「地元」という言葉が注目をあつめ、その概念について様々に論議されるようになったことがある。そして、近年では地元志向とキャリア意識に関する研究 (田澤・梅崎, 2016) 等、様々な研究が行われるようになった。

そこで、本研究では、「ひと」の流れの根幹となる地元志向に着目し、これから社会人となる大学生の職業観が地元志向に与える影響について検討する。

方 法

全国の大学生・大学院生を対象にインターネットによるWEB調査を実施し982名から回答を得た。このうちすべての項目に回答のあった851名 (男子学生：396名、女子学生：455名) を分析対象とした (有効回答率：86.7%)。

調査票では、「所属大学の学部・学科系統」「大学所在地」「在籍した中学校の所在地」「地元を考えている地域」について、設定された項目から一つを選択させた。また、職業観尺度を作成するための48項目、地元志向尺度を作成するための22項目などによって構成した。

結 果

調査の結果、「所属大学の学部・学科系統」においては、人文科学系統、教育系統、芸術系統の分布が若干多い傾向はあるもののすべての学部・学科系統に分布が見られた。また、「大学所在地」「在籍した中学校の所在地」「地元と考えている地域」においては、関東1 (東京都)、関東2 (埼玉県・千葉県・神奈川県)、北越 (新潟県・富山県・石川県・福井県) 地域の分布が若干多い傾向はあるものの、すべての地域に分布しており、概ね妥当なDATAと考えられる。

また、職業観尺度を作成するための48項目について、 α 因子法、バリマックス回転による探索的因子分析を固有値 ≥ 1.0 を基準としておこなったところ、7因子 (家庭因子 $\alpha=.945$ 、昇進因子 $\alpha=.931$ 、社会への貢献因子 $\alpha=.859$ 、収入因子 $\alpha=.797$ 、経営参画因子 $\alpha=.774$ 、余暇因子 $\alpha=.760$ 、自己実現因子 $\alpha=.758$) が抽出され、これを職業観尺度とした。

また、地元志向尺度を作成するための22項目について、 α

因子法、バリマックス回転による探索的因子分析を固有値 ≥ 1.0 を基準としておこなったところ、3因子 (地元への好感因子 $\alpha=.882$ 、地元での労働志向因子 $\alpha=.910$ 、地元を離れることへの不安因子 $\alpha=.842$) が抽出され、これを地元志向尺度とした。

次に職業観が地元志向に与える影響について検討するために、職業観の7因子を独立変数、地元志向の3因子を従属変数とする強制投入法による重回帰分析をおこなった。その結果、地元への好感因子には、家庭因子、経営参画が正の影響を与えていた。また、地元での労働志向因子には、経営参画因子が正の影響を与えていた。地元を離れることへの不安因子には、収入因子、自己実現因子が負の影響を与え、経営参画因子、余暇因子が正の影響を与えていた (Table 1)。

Table 1 職業観が地元志向に与える影響

従属変数	地元への 好感因子		地元での 労働志向因子		地元を離れること への不安因子	
分散分析	F	p	F	p	F	p
R2	6.728 ***		4.837 ***		5.485 ***	
	.053		.039		.044	
標準偏回帰係数						
	β	p	β	p	β	p
家庭因子	.103 **		.056 <i>n.s.</i>		-.014 <i>n.s.</i>	
昇進因子	-.055 <i>n.s.</i>		-.062 <i>n.s.</i>		.064 <i>n.s.</i>	
社会への貢献因子	.063 <i>n.s.</i>		.046 <i>n.s.</i>		.032 <i>n.s.</i>	
収入因子	-.002 <i>n.s.</i>		-.043 <i>n.s.</i>		-.126 **	
経営参画因子	.155 ***		.160 ***		.115 **	
余暇因子	-.032 <i>n.s.</i>		-.017 <i>n.s.</i>		.124 **	
自己実現因子	-.001 <i>n.s.</i>		-.001 <i>n.s.</i>		-.081 *	

考 察

本研究の結果から、家庭や仕事、経営参画因子などに関わる職業観が、大学生の地元志向に影響を与え、地元への好感、地元での労働志向を高めることが明らかになった。また、収入因子、自己実現因子が地元を離れることへの不安をやわらげ、経営参画因子、余暇因子が地元を離れることへの不安を高めることが明らかになった。これらの結果から、大学生は首都圏に流れる傾向が推測された。他方、家庭因子、経営参画因子、余暇因子、収入因子、自己実現因子といった職業観が、地元志向に影響を与えることが明らかにできたことから、国内に「ひと」の流れをつくるために、職業観の形成を目的とするキャリア教育の意味は小さくないと考えられる。

引用文献

まち・ひと・しごと創生本部 (2017). まち・ひと・しごと創生総合戦略 (2017 改訂版) 内閣官房内閣広報室
田澤実・梅崎修 (2016). 大学生の地元志向とキャリア意識—全国就職活動生のデータ分析— 日本キャリア教育学会第38回研究大会研究発表論文集, pp76-77.